

## コンテナ取扱個数、取扱貨物量前年並み

### 令和7年外貿コンテナ取扱個数

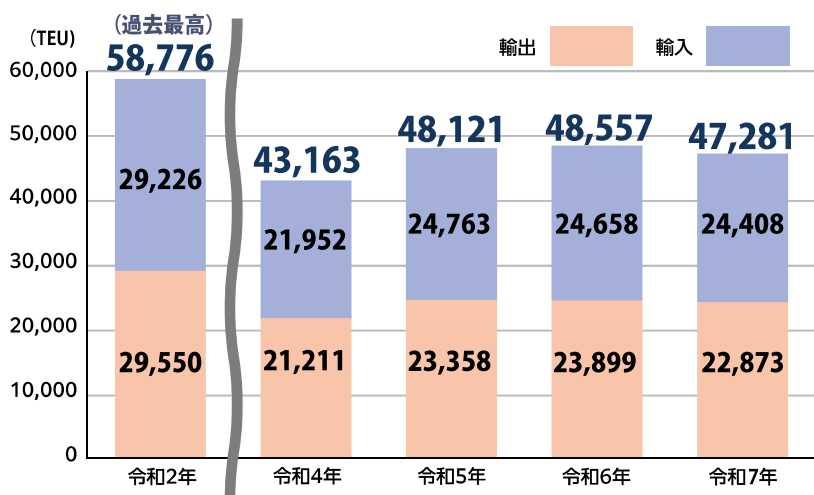
区分	令和7年外貿コンテナ取扱個数		
	合計	輸出	輸入
実入りコンテナ	31,077 (対前年比97.8%)	7,256 (対前年比88.7%)	23,821 (対前年比101.0%)
空コンテナ	16,204 (対前年比96.6%)	15,617 (対前年比99.4%)	587 (対前年比 55.1%)
取扱個数(TEU)	47,281 (対前年比97.4%)	22,873 (対前年比95.7%)	24,408 (対前年比 99.0%)

石狩湾新港の令和7年の外貿コンテナ取扱個数は、輸出が22,873TEU、輸入が24,408TEU、合計で47,281TEUとなりました。

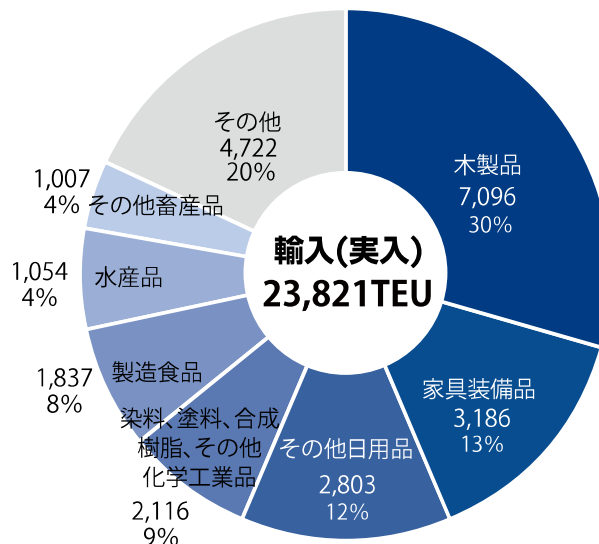
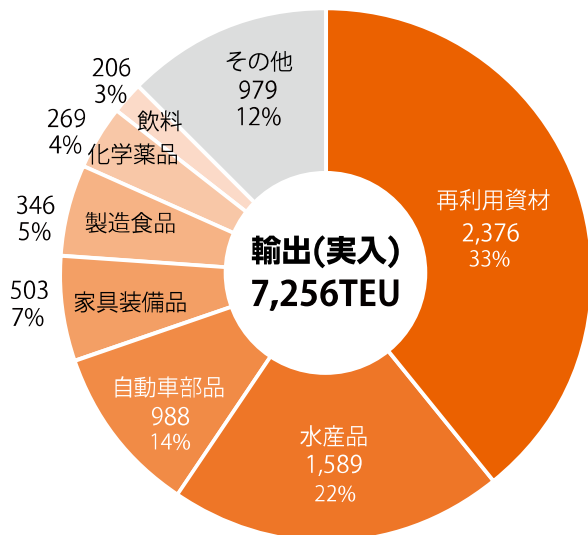
主な動向として、輸出では、自動車部品が988TEU(対前年比118%)と増加したものの、再利用資材が2,376TEU(対前年比74.1%)と減少するなど、輸出全体としては前年並みの取扱いとなりました。

また、輸入では、木製品が7,096TEU(対前年比101.7%)と増加したほか、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品が2,116TEU(対前年比112.9%)、製造食品が1,837TEU(対前年比106.1%)となり、そのうち、実入りコンテナは2年連続で増加しましたが、輸入全体としては、前年並みとなりました。

### 外貿コンテナ取扱個数5年間の推移 ※令和7年は速報値



### 令和7年外貿コンテナ貨物品目構成 速報値(単位: TEU)

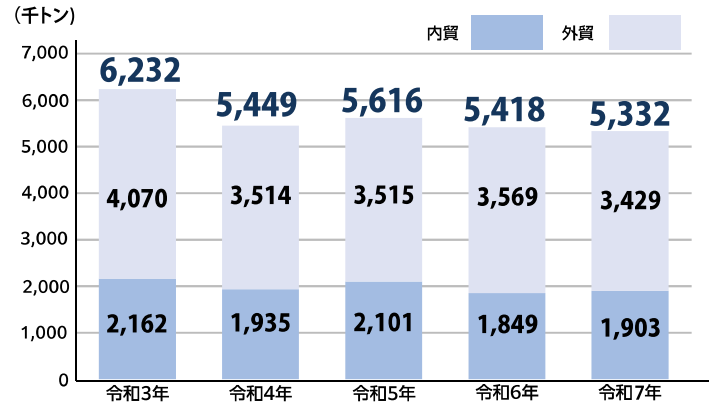


# 令和7年取扱貨物量の概況

令和7年の取扱貨物量

輸出	➡ 28万4,292 トン (対前年比 101.5%)
輸入	314万4,474 トン (対前年比 95.6%)
移出	25万 819 トン (対前年比 91.2%)
移入	➡ 165万2,072 トン (対前年比 104.9%)
合計	533万1,657 トン (対前年比 98.4%)

取扱貨物量5年間の推移 ※令和7年は速報値



令和7年の取扱貨物量は全体として前年を若干下回る5,331,657トンとなりました。

主な動向として、輸出では、バングラデシュやベトナム向けの金属くずが増加し、201,913トン(対前年比107.4%)となったほか、アラブ首長国連邦やマレーシア向けの自動車部品が11,455トン(対前年比120%)となるなど、輸出全体では前年を上回りました。

また、輸入では、韓国からの灯油が、320,348トン(対前年比109.2%)と増加したものの、マレーシア等からのLNGが2,597,620トン(対前年比96.4%)と減少したため、輸入全体では前年を下回りました。

そして、移出では、北海道内への灯油が71,020トン(対前年比68%)と減少し、その影響が大きく、移出全体では前年を下回りましたが、移入では、建設資材の原料となる砂・砂利が、481,308トン(対前年比106.5%)、石灰石が282,322トン(対前年比、155.4%)となるなど、移入全体では前年を上回りました。

# 令和7年外国貿易額の概況

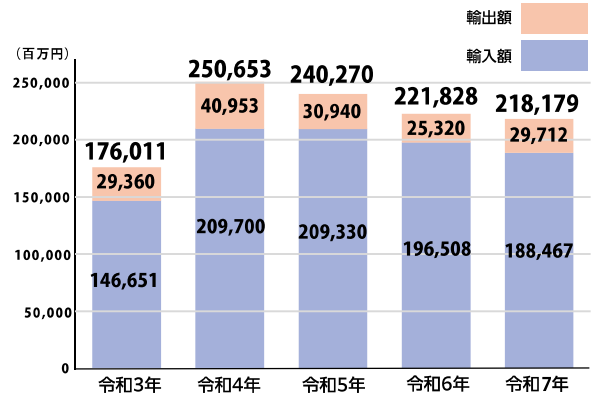
函館税関小樽税関支署石狩出張所によると、石狩湾新港の令和7年外国貿易額は、輸出額が297億1,245万円(対前年比117.3%)、輸入額が1,884億6,662万円(対前年比95.9%)、総額2,181億7,907万円(対前年比98.4%)となりました。

輸出額では、主要品目である「魚介類及び同調整品」が124億6,168万円(対前年比170.2%)となるなど、3年ぶりのプラスとなり、過去3番目となりました。

輸入額では、「天然ガス及び製造ガス」が872億8,672万円(対前年比93.3%)となり、輸入全体としても前年を下回る結果となりました。

出典：函館税関貿易統計資料

石狩湾新港外国貿易額推移 ※令和7年は速報値



## 石狩湾新港をもっとPRしたい!!

### 地元中学生がポスターを製作

石狩湾新港管理組合では、子どもたちが少しでも港湾や物流に興味、関心を持つきっかけとなるよう、港湾学習の受け入れを行っています。

令和7年11月には、石狩市内中学校の依頼を受け、座学と本港コンテナヤードの見学会を実施しました。本港の役割や、世界と繋がる港が地元にあることなどを学んだ生徒たちは、学習内容を振り返り、本港とその背後にある石狩湾新港地域の特色を紹介し、多くの人に本港を知ってもらえるよう、ポスターを製作しました。

なお、そのポスターを製作する中で、生徒からは、「石狩湾新港があることで自分の生活が支えられていることを知った」、「石狩湾新港が地元にあることが誇らしく、自慢に思える」といった声が上がっていたそうです。

本港から住宅街までの間には防風林がある等の理由から、市民が港に親しむ機会が少ないという現状があります。当組合では今後もこうした活動を継続し、港湾の役割を伝えていくとともに、参加した生徒たちが将来、港や物流の現場で力強く活躍する姿を楽しみにしています。



花川北中学校1年生の作品(同校提供)